

プロジェクトワーク「ビジターセッション」実践報告

福田能子 シュバリエ早苗
ケルン日本文化会館日本語講座

基本情報

実施機関名	ドイツ ケルン日本文化会館
実施コース名	日本語・本コース・A2-2 前半「初級4」(ケルン文化会館内名称) レベル：□A1 <input checked="" type="checkbox"/> A2 □B1 □B2 □C1 □C2
実施日時または期間	2016年4月～7月 / 2016年10月～2017年2月
授業時間	120分@1コマ、2回/週×16週=32回
授業担当講師	<input checked="" type="checkbox"/> 報告者 福田能子 シュバリエ早苗

1クラスの学習者数	2016年度夏学期生(昼・夜)計29人/2016-17年度冬学期生22人 ⁽¹⁾
学習者の属性	性別：男性17/6人 女性12/16人 年齢：10代5人、20代11人、30代24人、40代7人、50代1人、 60代以上2人 無回答1人
使用教材	<input checked="" type="checkbox"/> 『まるごと』 □入門 (□かつどう □りかい) □初級1 (□かつどう □りかい) <input checked="" type="checkbox"/> 初級2 (■かつどう ■りかい) □初中級 □その他の教科書：_____

★その他：所属機関の教師の属性：母語話者17人、非母語話者2人

1 実践の背景

1.1 従来の実践と課題

2016年度夏学期(以下「夏学期」)以前の初級A2-2前半コースでは、従来の教科書に沿った授業に加え、プロジェクトワークとして、クラス内発表を実施していた。当初このプロジェクトワークは、A2-2前半ごろの学習者に見られる学習意欲の停滞、言語的発見や積極的な文化体験の機会減少といった問題に対処するための一つの試みとして導入された。

発表のテーマと方法は、直前に扱われた教科書のトピックに合わせ、教師間の相談の上で決定された。プロジェクトワークに関する学習者への説明は、実施約一週間前になされ、一コマ

を準備に、次の一コマを発表に当てていた。

従来の実践においては、期間中に欠席者数が急増すること、また、準備日および発表当日に学習者のモチベーションが感じられないことが問題となっていた。コース終了時のアンケートでも、興味が持てない、意義が感じられないという意見が散見されたため、さらに詳しいヒアリングを行ったところ、プロジェクトワーク自体は「悪くない試み」として受け入れられているものの、その内容や運用方法に不満があることがわかった。特に多かった意見は、テーマにも発表内容にも目新しさがなく面白味がない、新たに何かを学んだと感じられない、期間中はどうしても母語使用が増えてしまうので充実感がない、既知の情報についての発表が多いため、母語話者間での発表や質疑応答に意義が感じられない等だった。

1.2 課題解決のための方針

こうした現状を踏まえ、プロジェクトワークで扱うテーマや実施方法をどう改善すべきかが課題となった。そこで、そもそもなぜプロジェクトワークを導入するのか、という基本に立ち返り、学習者オートノミーを育てる一助となる学習活動として計画できないかと考えた。青木(2005)では、学習者オートノミーを、「学習者が自分で自分の学習の理由あるいは目的と内容、方法に関して選択を行い、その選択に基づいた計画を実行し、結果を評価できる能力」と述べている。学習者オートノミーを行使した学習活動は、しばしば自己主導型学習と呼ばれ(Holec, 1985)、学習者オートノミーは、この自己主導型学習を経験することによって育つとされている(Little, 1991)。これらを念頭に、新しいプロジェクトワークの枠組みを考えるに当たり、以下の点に留意した。

- ・ 学習者が自由にテーマ、内容、発表方法を選択する。
 - ・ 学習者が自分でプロセスを管理する。
 - ・ 学習者自身がテーマについての情報を集め、知識を深める。そこで得たリソースとその利用法は学習者が選ぶ。
 - ・ 教師は随時進捗状況を確認し、適宜、質問に答えたり、必要に応じてアドバイスをを行う。
- また、発表の聞き手に関しては、

- ・ 日本語母語話者であり、学習者の発表を聞き、その内容について質問したり、簡単な所感を述べたりすること。
- ・ 学習者が、聞き手から反応や評価を得られたと実感できること。

を考慮した。

以上を踏まえ、新しいプロジェクトワークとして、日本語母語話者をビジターとして教室に招き、学習者と生のやりとりをする「ビジターセッション」が提案された。ビジターとのやりとりは、学習者が事前に自分で選び、準備したテーマを軸に行われた。学習者は、興味のある

分野や、ビジターに伝えたい、もしくは聞いてみたいテーマについて各自（またはペアで）考え、それについてリサーチしたり、その内容をメモや原稿にまとめたりして準備をした。また、やりとりを手助けするツールとして、写真、映像、ポスターなどを各自の判断によって自由に取り入れた。準備の方法とプロセス、および当日のゲストとのやりとりの内容については、可能な限り学習者に選択してもらった。期待されたのは、この実践により、学習者が自分の学習のプロセスをふりかえり、自分自身で学習内容や順序、ペース、場所などを選択できるようになる、そして、その能力を伸ばすきっかけを得ることである。

本実践では、学習者の現状や、セッション後の意識や取り組み方の変化を把握するために、経過観察に加え、セッションの事前、事後にアンケート調査とヒアリングを実施した。さらに、約半年～1年後に再びフォローアップ・インタビューを行い、その後の経過を追った。

2. 実践内容

プロジェクトワーク（全4回）は、以下の流れで行った。（コース全体のスケジュールは、資料1を参照）

- (1) コース開始時にビジターセッションを行うことを説明し、学習者自身がテーマについて考える時間を十分取る。（『まるごと かつどう』の「生活と文化」を選択肢として紹介するが、強制はしない）
- (2) 事前アンケートを実施し、現状を把握する。同時期にビジターの募集を開始する。
- (3) 準備日（第1回目）に、セッションの流れを確認する。この日までに各自がテーマの大枠を考えておき、全体で共有する。希望者は似たテーマの学習者とペア、もしくは3人組をつくる。（学習者の選択テーマは、資料2を参照）
- (4) 例として発表原稿の「モデル文」を読み、発表の構成や文章、表現を確認する。モデル文は、次の4点で構成されている。
 - ・ テーマについて自国と日本を比較し、相違点や類似点の具体例を挙げる。
 - ・ それについて自分が感じたこと、感想や意見を述べる。
 - ・ もし可能であれば、なぜ違うのか/似ているのかを考察する。
 - ・ 質問をする（準備期間中に出た疑問点はメモを取り、ゲストへの質問として準備する）
- (5) 準備日（第2回目）には、全体で再度各自/各ペアのテーマを共有する。クラスメートと話し合いながらアイデアをメモし、写真、データなど必要な資料を探し始める⁽²⁾。メモを元に発表原稿を書き始める。（準備日第2回目と3回目の間に約3週間の期間を空け、学習者の準備プロセスのフォローと原稿の添削を行う。この期間中は通常授業を行うが、毎回の授業で準備の進捗状況を確認し、適宜必要な提案やアドバイスを行う。）
- (6) 準備日（第3回目）に、クラス内で発表練習を行い、ピア・フィードバックを得る⁽³⁾。

- (7) ビジターセッション（第4回目）当日は、スピードデート方式で、ビジターが15分～20分毎に学習者のテーブルを移動して発表を聞く。各テーブル⁽⁴⁾では、各自の簡単な自己紹介及び、学習者による発表、質疑応答を行う。全セッション終了後⁽⁵⁾、ビジターから簡単なフィードバックを得る。
- (8) 事後アンケートとヒアリングを行う。
- (9) アンケートとヒアリングの結果を参考に、教師間でふりかえりを行い、改善点を検討する。
- (10) 4～11か月後、再度ヒアリングを行い、その後の状態や変化を把握し、改善点や今後のプロジェクトワークの方向性を検討する。

3. 実践後の調査

プロジェクトワークにおいては、事前・事後に質問票によるアンケートを実施し、また、事後に自由に意見を述べる形で学習者へのヒアリングを行った。プロジェクトワーク実施の4か月後・11か月後には計6人の学習者⁽⁶⁾にフォローアップ・インタビュー（ドイツ語で実施後、文字化して翻訳）も行った。

アンケートでは、事前に「ビジターセッション」への興味など、事後には今回のプロジェクトワーク・ビジターセッション全般についての感想、改善点、次回も参加したいかなどについて聞いたほか、以下の3点について、事前と事後に類似の質問を行い、その回答数を比較した。質問と回答者数の詳細は、資料3を参照のこと。

- ・ 疑問/不思議に思ったことを調べるか（事前）／今後は積極的に調べたいと思うか（事後）
- ・ 調べて発見したり生活の中で気づいたりしたことをクラスメートや知り合いなどと話す機会があるか（事前）／今後、話す機会を積極的に持ちたいか（事後）
- ・ 興味を実際の行動につなげるか（事前・事後）

さらに、本年6月、夏学期の実践からは11か月、冬学期の実践からは4か月後に、当時の学習者、それぞれ3人ずつ計6人にフォローアップ・インタビューを行った。質問事項は、以下の3点であった。回答の詳細は、資料4を参照のこと。

- ・ プロジェクトワーク後の日本語・日本語学習に対する意識の変化：これができる、これが足りない、好き嫌いなど、気づいたことがあったか。
- ・ 上記の回答に関連して、プロジェクトワーク後、学習内容や方法について自分自身で考えたり、変えたり、変えたいと思ったことがあるか。
- ・ 自分で何かを始めたり、やめたりした場合、それを振り返ってどう思うか。

4. 実践の成果

上掲のアンケート調査及びヒアリング調査の結果から、このプロジェクトワーク・ビジターセッションの成果として以下の5点が考えられる。

4.1 学習者オートノミーの促進

学習者オートノミー (learner autonomy) は、「学習者が自分で自分の学習の理由あるいは目的と内容、方法に関して選択を行い、その選択に基づいた計画を実行し、結果を評価できる能力」(青木 2005) と定義されている。今回のプロジェクトワークでは、学習者が自分でテーマを選び、調べ、ビジターに発表し、それぞれにその結果について内省を行った。こうした点において、この活動自体、学習者オートノミーを発揮できる活動であったと言えるだろう。さらに、それに加えて、事前・事後アンケートで質問した「疑問に思ったことを自分で調べる」「他者と関わる」「興味を持ったことを実際に行う」という態度も学習者オートノミーにつながるものであると考えられる。

「疑問に思ったことを自分で調べる」かどうかという質問については、事前アンケートの回答者数(「積極的に調べる: 10名」「時々調べる: 17名」)は、事後アンケートにおいて積極性に増加がみられた(「積極的に調べたい: 16名」「時々調べたい: 13名」)。また、「発見したことを他者と話す機会があるか」という質問でも「よくある・(そういう機会を)絶対に持ちたい」という回答は、事前の7名から事後の13名へと増加し、「時々ある・(そういう機会を)時々持ちたい」と回答した学習者は、事前の16名から、事後の15名へと減少しているが、「よく・絶対」と「時々」の総計では、23名から28名に増えている。さらに、「興味を持ったことを実際の行動につなげるか」どうかという質問でも、「積極的に」「時々」という回答者の合計は事前アンケートの23名から事後アンケートでの26名に増加した(詳細は資料3の「事前・事後の比較」を参照のこと)。

また、6人の学習者に行ったフォローアップ・インタビューでは、6人ともが、プロジェクトワーク後、自分の日本語・日本語学習について、自分で理由を見出し、意識的・無意識的に目的を定め、学習内容を選び、実行ないし計画し、またそれぞれに学習効果について評価を行おうとしていることが分かった。たとえば、プロジェクトワークから直接に影響を受け、あるいはプロジェクトワークをきっかけとして、日本語母語話者と1対1のペアによる日本語・ドイツ語(英語)の学び合い、いわゆるタンデム学習を始めたり、始めようと考えている学習者が3人いた。また、残りの3人も交流会、趣味、家族、旅行などを通じて日本人と積極的に話すように始めている。そのほかにも、聞くこと、読むこと、書くことで新しい学習を始めたこと、学習方法を変えたことなどが報告されている。それぞれにその効果と結果を評価しようとしている姿も見られた。以上の点から、このプロジェクトワークは学習者の学習者オートノミーを促進したと言えるのではないかと考えられる。

4.2 学習者の満足感・自信・モチベーションの向上

事後アンケートのコメントで特に多かったのは、「楽しかった・面白かった」というものである。「楽しさ」が学習動機の向上につながることは明らかである。さらに、アンケートとフォローアップ・インタビューのコメントで顕著であったのは自信の向上に言及したものである。長い文章のスクリプトを書くことで得た自信に言及した学習者もいるが、特に、ビジターセッションで、日本人ビジターと話すことによって自分の会話力に自信をつけ、パントマイムなどを使ったストラテジーの効果を認識し、母語話者と話すことへの恐れが取り除かれたことが多く報告された。日本人と話すことに積極的になり、学習動機が高まったとの言及もあった。スピードデート方式で何回も同じ内容を話すことについては、何度も練習できたので、最後にはよい会話ができた、というコメントや、相手が変わるとビジターの反応や質問も違ったものになるので、興味深かった、というようなコメントもあった。さらに、担当教師同士の振り返り際には、プロジェクトワーク以降の授業で学習者が発話に積極的になり、戸惑うことなく、自信をもって話すようになったという共通した所感が確認された。

4.3 教室外活動の促進

ビジターセッションでビジターに発表する内容自体、教師が事前に用意したものではなく、学習者自身の興味から、多くはインターネットで、あるいは実際に日本人に質問などして自分で調べた内容である（学習者の選択テーマは、資料2を参照）。さらに、アンケート結果を見ると、夏学期、冬学期ともに、積極的に何らかの方法で調べたり、他者と関わったり、興味を持ったことを実際の行動につなげると答えた学習者がプロジェクトワーク後に増えている。またヒアリングにおいても、タンデムの開始、交流会参加など、教室外で学習を進めようとする試みについて言及されている。

4.4 文化理解促進

今回のプロジェクトワークでは、特にテーマを日本と学習者の国の文化の違いということにフォーカスし、そこから日頃疑問に思っていたこと、興味を持っていたことを自由にテーマに選び、調べ、日本人ビジターと話し合った。事後アンケートのコメントには、日本文化についてより多くの情報を得た、多くの新事実、驚くようなこと、今までの知識と相反するような知識を得たという記述もあった。テーマ以外でも、日本人との交流会、イベントの情報などを交換している。

4.5 通常の授業ではできないこと

アンケートでのコメントには、その他に、一つのテーマを深められた、まとまった長い会話ができ、教科書のテーマ以外の自由なテーマについて型に沿ったものではない会話ができ、自分自身で文を作ることを学べた、学習事項を応用し、深めることができた、などがあった。これらの点も成果として数えられるだろう。

5. これからの課題

新しいプロジェクトワークにおいて、学習者には、発表原稿はあくまでもきっかけに過ぎず、大切なのはその後のビジターとのやりとりだと説明していた。しかし、学習者によっては、作成した原稿を読み聞かせることだけに注力してしまい、やりとりには十分な時間を割くことが出来なかった。自分で調べたことをまとめ、文章化することに大きな達成感を感じた学習者も多かったが、ビジターセッションという好機を活かしたい場合、何をどこまで、どのくらいの時間をかけて、どう準備しておくべきなのか、再検討が必要である。

原稿作成においては、伝えたい内容と自分が運用できる形式との間のギャップからか、母語をそのまま無理に翻訳しようとする学習者もあり、日本語としては不自然な、または理解しづらい文章も散見された。原稿作成を経て、「文法や単語の知識の不足」(事後アンケート(3) 発見、気付き)を意識し、知識の補強の必要性を感じた学習者がいた一方、「頭で考えている難しいことを、まず簡単な言葉で書いてみるのがいいのだと気付いた」(フォローアップ・インタビュー参照、2016年、Bさん、女性)や、「分かりやすい文を書く練習」(事後アンケート(3) 発見、気付き)といった、今自分が運用できる範囲の形式を使って、わかりやすく伝えれば良い、という気付きを得た学習者もいた。

ビジターとのやりとりに主眼を置いた場合、後者のような意識を持って原稿作成が出来ると良いだろう。その手助けをするためにも、原稿作成の参考となるモデル文は、学習者が「読み聞かせる」のではなく、「わかりやすく伝える」ことを意識できる好例であることが望ましい。以上を踏まえ、全体の長さや構成、選択する語彙や表現を再考していきたい。

また、ビジターとのやりとりを、最終目標として意識してもらうためには、モデル文導入の順序自体も再考すべきである。本実践では、最初にモデル文を提示してしまったため、そこに引きずられたまま、「作文」を最終目的と捉えてしまう学習者もいた。そうした学習者は、書いた事と実際に言える事が大きく乖離してしまい、準備した情報をスムーズなやりとりにつなげることに苦心していた。こうした事を避けるためにも、例えば、最初からモデル文を読ませるのではなく、先ず教師の発話を聞かせ、それを出来る限り再話させた後、最後にテキストで確認するなど、より効果的な手順を検討したい。書いたものを音読するだけでも、暗唱するだけでもなく、インプットしたものをより自然な形でアウトプット出来る状態を目指したい。

ビジターセッションの実施時期については、当初から A2-2 前半で行うのが望ましいか否かと

いう議論があったが、「自信がついた」「学習のモチベーションを得た」というアンケートやフォローアップ・インタビューの結果からも、この段階で行うことの意義はあると言えるだろう。自分の日本語能力の伸びに停滞を感じ、上達の実感や達成感を得にくくなるこの時期だからこそ、こうしたプロジェクトワークを通し、学習者オートノミーを育てるきっかけを提供することは有用であると考えられる。

しかしこうした機会は、A2-2 前半レベルにだけでなく、その他のレベルでも適宜提供されるべきだろう。各レベルに合ったプロジェクトワークとは何か、言い換えれば、学習者がより主体的に関わることが出来る活動とは何か、またその方法にはどういったものがあるかを、各レベルで検討することが望まれる。

〔註〕

①各学期で学習者は異なる。また今実践期間内においては、再履修者（アンケートへの重複回答者）は存在しなかった。

②事前に、ネット接続が可能なPC、タブレット端末、スマートフォン等を持参するよう連絡。また、ネット接続可能なPCを2台教室に準備し、提供した。

③2016年度夏学期クラスでは、クラス全体の前での発表練習を1人/1組1回ずつ行ったのみだったが、2016-17年冬学期クラスでは、夏学期のアンケート結果を踏まえ、クラスを少人数のグループにし、相手を変えながら数回に渡る発表練習およびピア・フィードバックを行った。

④夏学期昼コース 中型テーブル5台使用、ペア毎に1台、他は1テーブルを1人～2人で使用。

夏学期夜コース 会議用長テーブル1台使用、ペア/グループ/個人毎に座り、その周囲に空いた椅子を準備し、ビジターはその椅子を移動。

冬学期 中型テーブル6台使用、ペア/グループ毎に1台、1台のテーブル共有（別テーマ）が2名、その他は1人1台使用。

⑤各コースのテーブルの総数は脚注4を参照。各コースのラウンド数（フィードバックを受けることが出来た回数）は以下の通り。夏学期昼コース：5ラウンド、夏学期夜コース：5ラウンド、冬学期：6ラウンド。

⑥インタビュー対象者の選定は、授業時間外のインタビューだったため、主に学習者の時間的な都合を優先し、学期、性別が偏らないように考慮しつつ、個別に問い合わせる形で行った。

参考資料

- ・ 青木直子（2001）「教師の役割」 青木直子・尾崎明人・土岐哲（編）『日本語教育学を学ぶ人のために』、184-199、世界思想社
- ・ 青木直子（2005）「自律学習」 『新版 日本語教育事典』、773-775、大修館書店
- ・ 青木直子（2008）「日本語を学ぶ人たちのオートノミーを守るために」 『日本語教育』138、33- 42
- ・ Holec, H. (1985) On autonomy : some elementary concepts, In P. Riley (Ed.), *Discourse and learning*, Longman, 173-190
- ・ Little, D. (1991) *Learner autonomy1: Definitions, issues and problems*. Dublin :

Authentik

資料1 コース全体のスケジュール

2016/17 Herbst/Winter Grundstufe 4 Katsudo&Rikai Zeitplan						
■Dozentin:		火 ふくだ先生	木 シュバリエ先生			
Datum	Topic	Lektion				
1	10/18 (Di)	1. 新しい友だち (Neue Freunde)	活動	1	いい名前ですね。 Das ist ein guter Name	
	10/20 (Do)		理解			
2	10/25 (Di)		活動	2	めがねをかけている人です Sie ist die mit der Brille	
	10/27 (Do)		理解			
3	11/03 (Do)	2. 店で食べる (Im Restaurant)	活動	3	おすすめは 何ですか。 Was empfehlen Sie?	
	11/08 (Di)		理解			
4	11/10 (Do)		活動	4	どうやって食べますか。 Wie isst man das?	
	11/15 (Di)		理解			
5	11/17 (Do)	3. 沖縄旅行 (Okinawa)	活動	5	ぼうしを持っていったほうがいいですよ。 Sie sollten einen Hut mitnehmen.	
	11/22 (Di)		理解			
6	11/24 (Do)		活動	6	イルカのショーが見られます。 Man kann eine Delphinschau sehen	
	11/29 (Di)		理解			
7	12/01 (Do)	PW 1		プロジェクトワーク①		
	12/06 (Di)					
8	12/08 (Do)	復習	活動	ふくしゅう		
	12/13 (Di)		理解	Wiederholung		
9	12/15 (Do)	4. 日本まつり (Japanfest)	活動	7	雨がふったら、どうしますか。 Was machen wir, wenn es regnet?	
	12/20 (Di)		理解			
10	12/22 (Do)		活動	8	コンサートはもうはじまりましたか。 Hat das Konzert schon begonnen?	
	1/05 (Do)		理解			
11	1/10 (Di)	5. とくべつな日 (Besondere Tage)	活動	9	お正月はどうしてしましたか。 Was hast Du an Neujahr gemacht?	
	1/12 (Do)		理解			
12	1/17 (Di)		活動	10	いいことがありますように Wünsche für gute Dinge.	
	1/19 (Do)		理解			
13	1/24 (Di)	PW 2		プロジェクトワーク②		
	1/26 (Do)					
14	1/31 (Di)	復習	活動	ふくしゅう		
	2/02 (Do)		理解	Wiederholung		
15	2/07 (Di)	Abschlussprüfung <かつどう>				Portfolio abgeben bis hier Anwesenheit > 50%
	2/09 (Do)	Abschlussprüfung <りかい>				

資料2 学習者が選んだビジターセッションのテーマ

年度学期	2016年夏学期		2016 - 17 冬学期
	午後コース	夜コース	
学習者のテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・喫茶店（日本旅行で知った違い）2名（ペア） ・日本の火山、ドイツの火山 1名 ・ドイツのおばけ、日本のおばけ 2名（ペア） ・日本/ドイツで人気のスポーツ 1名 ・日本のタブー、韓国のタブー 1名 ・日本の旅館、ドイツのホテル 1名 ・数字に対する考え方の違い 1名 	<ul style="list-style-type: none"> ・外出（出かける習慣の違い）：2名（ペア） ・母の日 1名 ・食べ物の違い 1名 ・日本語とドイツ語 書き方の違い 1名 ・日本のおみやげ、ドイツのおみやげ 2名（ペア） ・電車の乗り方の違い 1名 ・日本の温泉 1名 	<ul style="list-style-type: none"> ・お酒の飲み方の違い 1名 ・日本の電車、ドイツの電車 2名（ペア） ・日本のペット、ドイツのペット 3名（グループ） ・バウムクーヘン 2名（ペア） ・プリクラ、きれいだと思う人（美意識の違い） 2名（ペア） ・ドイツの迷信、日本の迷信 1名 ・日本の祭り、ドイツの祭り 3名（グループ） ・外出 2名（ペア）

資料3 プロジェクトワーク アンケート結果（2016年夏学期・2016/17年冬学期）

1. 回答者数

事前アンケート：夏 14名、冬 15名（計 29名）

事後アンケート：夏 14名、冬 16名（計 30名）

2. 事前事後アンケートの回答者数比較

質問		事前アンケート		事後アンケート	
1. (次の)プロジェクトワーク (以下PW) に参加したいか。	積極的に参加したい	10	27	17	29
	参加したい	17		12	
	どちらでもいい、あまりしたくない、全くしたくない、無回答	2		1	
2. (PW前)疑問・不思議に思ったことについて自分で調べるか。	よく/積極的に	10	27	16	29
	時々	17		13	
(PW後)疑問・不思議に思ったことについて自分で調べたいか。	あまり調べない	1	2	1	1
	まったく調べない	1		0	
3. (PW前)発見したことを他の人(ドイツ人日本人問わず)と話す機会があるか。	よくある/絶対に持ちたい	7	23	13	28
	時々ある/時々持ちたい	16		15	
	あまりない/持ちたくない	5	6	2	3

(PW 後)発見したことを他の人 (ドイツ人日本人問わず)と話す機会を持ちたいか。	無回答	1		1	
4. (PW 前)興味を実際の行動につなげることがあるか。	積極的に	7	23	11	26
	時々	16		15	
(PW 後)今後興味を実際の行動につなげるか。	あまりしない	3	6	1	4
	全くしない	2		0	
	分からない・無回答	1		3	

3. プロジェクトワーク事後アンケート内の主なコメント (カッコ内は回答者数)

質問項目	主なコメント
(1) 次回のPW、ビジターセッションに参加したい理由	<p>楽しかった・面白かった (11)。 日本人と話すいい練習 (4)。 次の機会にはもっとたくさん上手に話したいから (2)。 原稿を自分で準備しスピーチするのはいい練習 (2)。 日本語で日本人と話せるよい機会 (2)。 ゲストが親切 (2)。 大変・難しいが、いい練習 (2)。 興味深い会話。 日本文化についてより多くの情報が得られた。 まとまりのある会話ができる。 日本人と自然に話せた。 準備も楽しかった。 既習内容が応用でき、一つのテーマが深化できた。 勉強になった。 日本語を自由に話すのは教科書の練習とは違う。 発音や自由なスピーチが改善できる。</p>
(2) ビジターセッションがよかった理由	<p>ビジターが親切・いい聞き手・積極的に参加してくれる人々だった (10)。 面白かった・楽しかった (4)。 多くの新しい知識 (既知の知識と相反すること) が得られた (4)。 会話、プレゼンのいい練習 (3)。 興味深い・わくわくするような会話 (3)。 既習内容を応用し深化するいい練習。 完全ではないが、いい会話。 必死だったが、会話は成立した。 助力が必要だったが、自分で文を作ることを学んだ。 ビジターの話を理解するのが難しかったが、楽しかった。 日本人と接する機会が得られる。 いろいろな人に話す練習。 ビジターは静かな人もいたし、テーマについて質問する人もいた。</p>

	<p>日本語を話さざるを得ない状況がよかった。</p> <p>日本語の知識が試せた。</p> <p>母語話者に話すというチャレンジができた。</p> <p>自由なテーマについて話せた（教科書の勉強より現実的）。</p> <p>自由な会話が練習できる。</p> <p>勇気を出して話せる。</p> <p>長い会話。勉強になった。</p> <p>もっとしたい。</p> <p>リラックスした雰囲気。</p> <p>いい出会い。</p>
(3) 発見、気づき、フィードバック	<p>新しい驚くような事実を知った (3)。</p> <p>ゲストがドイツ語を話せなかったので良かった (2)。</p> <p>交流会・カラオケの存在 (2)。</p> <p>もっとしたい (2)。</p> <p>文法や単語の知識が不足。</p> <p>会話力の不足。</p> <p>良い練習。</p> <p>自由な会話。</p> <p>聞き手の反応の仕方や答え方。</p> <p>日本とドイツの比較がおもしろかった。</p> <p>最初は怖かったが、練習を通して気持ちが上向いていき、いい会話ができた。</p> <p>新しい学習動機が得られた。</p> <p>思っていたよりできることが分かった。</p> <p>分かりやすい文を書く練習。ワクワクするような体験。</p> <p>特に影響は受けなかった。</p>

資料4 フォローアップ・インタビュー内容要旨

インタビュー対象者：女性3名（2016年6月末にプロジェクトワーク参加）

女性1名、男性2名（2017年1月末にプロジェクトワーク参加）

質問1：プロジェクトワーク後の日本語・日本語学習に対する意識の変化：これができる、これが足りない、好き嫌いなど、気づいたことがあったか。

質問2：上記の回答に関連して、プロジェクトワーク後、学習内容や方法について自分自身で考えたり、変えたり、変えたいと思ったことがあるか。

質問3：自分で何かを始めたり、やめたりした場合、それを振り返ってどう思うか。

Aさん：女性（2016年6月末にプロジェクトワーク参加）

問	コメント内容
1	<ul style="list-style-type: none"> 自分が書いた日本語が通じたので自信がついた。楽しかった。 初めて構成のある文章を書いて、満足感を覚えた。 自分が準備したテーマを発表するのは難しくなかったが、テーマについて話していくうちに日本語力が追いついていかなかった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・速く話されると聞き取れない。会話で省略があると分かりにくい。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・上手になりたいと思った。 ・まるごとの音声を聞いて何度も繰り返して言う練習を始めた。 ・サザエさんをユーチューブで見るようになった。 ・日本に2回旅行した。自信がついて、行ける！と思ったから。 ・以前は日本語は趣味だったが、今は「勉強」。もっと向上心がある。本も沢山買った。 ・長い文章を書くようになった。例えば、日記。 ・交流会にももっと行こうと考え、もっと複雑なことを話そうと努力している。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・サザエさんを見ていて、授業で習った表現が聞き取れるようになった。 ・自分でまるごと音声をよく聞き、リピートしたことが日本での会話に生きた。 ・作文はとて面白い練習だと思う。

Bさん：女性（2016年6月末にプロジェクトワーク参加）

問	コメント内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・スクリプトを書くことによって、文型がよりよく理解できた。 ・発音や強調する部分などよくできるようになって、話すことをためらわなくなった。 ・質問されて、会話の中で考え、スクリプトにないことを話せたことで自信がついた。 ・以前はあまり文を書かなかったが、プロジェクトワークで文章を書いたことで、読むこともたやすく、また楽しくなった。 ・書くのは難しい。頭で考えているむずかしいことをまず簡単な言葉で書いてみるのがいいのだと気づいた。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館で短いお話を借りて読み始めた。 ・自分はあまり話さないので、書いてあることを音読するようになった。 ・弓道に来ている日本人に話しかけるようになった。 ・交流会に応募した（以前は一度もしたことがなかった）。 ・また日本に行く。日本で日本人に話しかけるほうが話しかけやすい。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語のお話を読むことには学習効果があると思うし、これからも続けたい。 ・音読をすると、よりよく理解できる。 ・日本人と話すことでより効果が出ているかというところでもない。もっと流暢に話せなければいけないと思う。でも続けたい。

Cさん：女性（2016年6月末にプロジェクトワーク参加）

問	コメント内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の選んだテーマについてある程度調べていたことも手伝って、セッション中、相手の質問に答えて会話することができた。授業で習ったことが実際に使えて、そこから会話につながっていったことで非常に自信がついた。 ・自分が話すことはゆっくりではあるが通じる日本語であることが分かった。 ・私は語彙が足りない。しかし、パントマイムなどのストラテジーで通じた。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ボーイフレンドの家族と食事をするときなどに、以前より会話を注意深く聞き、日本語で返事をするようになった。

3	・注意して聞くことで、教科書の中のない語彙、話し方などに気づくことができる。
---	--

D さん：女性（2017年1月末にプロジェクトワーク参加）

問	コメント内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・発表は3度目にはとても流暢に話せるようになっていた。自信が付き、話すことへのためらいが小さくなった。 ・テーマについて知っている日本語の難しい文章も読めるということが分かった。 ・読んだり聞いたりすることは比較的できるが、発話ができない。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・交流会になるべく行くようにしている。そして、プロジェクトワーク後は、テーマがおもしろく、準備してあれば流暢に話せることが分かったから、質問を準備して参加し、もっと話すようになった。 ・タンデムパートナーを探して、正しいきれいな日本語が話せるように練習したいが、現在は時間が無い。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・交流会での会話は教科書の日本語とは違うが、よりよく分かるようになった。自分が話すときは、ジェスチャーも交えて最終的には分かってもらえるが、きれいな正しい日本語が話したい。

E さん：男性（2017年1月末にプロジェクトワーク参加）

問	コメント内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・長い文章を自由に書くのは初めてだったが、この後少し自由な文章が書けるようになった。 ・質問はわかっても、答えられなかった。答えられる力があればいいのにと願った。 ・習ったことだけは覚えているような文法も、実際に使うことでより頭に残った。 ・日本人と話して自由な会話を練習する動機が強くなった。 ・ビジターと話しているうちに緊張もほぐれて楽しくなってきた。またやってもいいな、と思った。 ・日本人と話すことの不安、頭の中の障壁が取れた。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホのアプリでタンデムを始めた（直接にプロジェクトワークの影響かどうかはわからないが）。様々な日本人と話したり、作文を直してもらったりできる。一对一の会話ならできると思って、始めた。 ・基金の交流会は、まだ私には難しい。もう少ししたら参加したい。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ効果は目に見えていない。しかし、効果はあると思うので、続けるつもり。

F さん：男性（2017年1月末にプロジェクトワーク参加）

問	コメント内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、一つのテーマについて、集中的に取り組んだのはよかった。ビジターセッションでは、初対面の日本人と「本物」の会話をして本当に通じるのかどうか試せたのがよかった。この経験から、自分は全てではないが、かなりのことができる、やってみること、新しいことを始めてみるのが大切だと思った。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと勉強したいと思ってタンデムを始めた。インターネットのチャット／ビデオチャット、現地の日本人。 ・作文では、モデル文から離れた自由な文を書いて原則的なことがわかったかどうか試すようになった。 ・勉強の仕方も変わった。以前はただそのまま暗記していたが、今はもっと集中して、考えながら言語

	<p>に向き合っている。一つの言葉にしてもそれがどんな状況で使えるものなのかなど。ただ暗記するだけでは、ほかの状況では使いこなせないことがわかった。プロジェクトワークで、一つのテーマに取り組んで、どうやって言い換えればいいのか、どう文章にすればいいかなど熟考した。それが影響して、今は取り組み方が変わった。集中的に体系的に取り組むようになった。</p> <ul style="list-style-type: none">• 一つの漢字についてどんな言葉を追加的に使うかなども注意を払うようになった。あらゆる領域でモチベーションの増加があった。
3	<ul style="list-style-type: none">• 私は日本語を話すときに不安を感じてしまうほうだが、タンデムはとても効果がある。